べびすま NEWS ～ベビーすまいる～

2018年11月
Vol.39
発行：BFH委員会
4階・産科病棟

抗インフルエンザ薬と授乳　小倉　智恵美（妊婦授乳婦専門薬剤師）

インフルエンザ流行の時期となりました。妊婦さんが罹患した場合は重症化のリスクが高いため抗インフルエンザウイルス薬(以下、NAI)で治療することが推奨されています。授乳中の患者さんについては産後2週間を過ぎれば重症化のリスクは低くなりますが、育児の大変さを考えると少しでも早く体調を戻したいというのが本音ですよね。

NAIのうち、タミフル、リレンザ、イナビルについては、母乳を介して赤ちゃんに悪影響があったという報告はありません。そのため、授乳中でも使用可能と考えられています(注意：妊婦さんはイナビル使用の情報がまだ不足しているため、情報が集まるまではタミフルかリレンザを推奨しています)。また、ラピアクタ点滴静注は比較的新しい薬ですが、口から摂った場合にほとんど身体に吸収されず(そのため飲み薬はありません)、母乳中に薬剤が含まれていたとしてもそれを飲んだ赤ちゃんの身体に吸収される量はとても少ないと言えます。また、小児でも点滴することのある薬なので、場合によっては授乳中でも使用することもあるでしょう。

母親がインフルエンザに罹患した場合は、授乳という母子密着の状態が赤ちゃんへの感染につながることを避けるため、部屋のこまめな換気や母親自身がマスクを着用する他、手を良く洗う、手がよく触れる場所の拭き掃除をする、などの対策が必要です。母乳からインフルエンザが移ることはありません。

最後に、ワクチンについてです。妊娠期間中のインフルエンザワクチン接種は妊娠全期間を通じて推奨されています。その理由は、母親の重症化予防に最も有効であることと、生後6ヶ月までの赤ちゃんのインフルエンザ罹患率を減少させることで、母子双方にメリットがあるからです。「感染しないこと」が何より大事なので、流行前のワクチン接種の他、人ごみを避ける、うがい手洗いをしっかり行なうなどの対策をとりましょう。

BFH出前講座（職場学習会）開催します

11月～12月に「BFH出前講座」を開催します。出前講座は、産科病棟スタッフが各職場に伺い、母乳育児支援を中心としたお話をさせていただきます。所要時間は約10～15分です。都合の良い日を4階安孫子師長（内線5389）までご連絡ください。